

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>(1) 子どもの貧困について 熊本市の子どもの貧困率は約24%で約4人に1人、全国の平均は13.9%で7.2人に1人とのことである。まずは貧困解消のために財源を割いていただきたい。</p>	<p>〔市長〕 子どもの貧困対策については、会議体をしっかりと作り、例えば子ども食堂などの充実に向けた取組などを行っているところである。また、返還不要の奨学金制度を検討しているが、例えば国と県の制度でカバーできる部分がないか、どういう制度設計がいいのかなどを検討しているところである。</p> <p>-----</p> <p>【子ども政策課 追記】 平成29年に「子どもの生活等実態調査」を行った結果、本市の相対的貧困率は14%に上り、また、子どもの貧困は、経済的な問題のみならず、家庭環境の不安定さからくる教育の機会や親子の関わりの欠如、社会的つながりの希薄化等の様々な問題が相互に関係しており、その課題は多岐に渡ることが分かった。これを受けて、平成31年1月、子どもの貧困対策を一体的に推進するため、「熊本市子どもの未来応援アクションプラン」を策定し、重点事業として、子どもの将来が家庭の環境で左右されることなく、世代を超えて連鎖することがないように、基礎学力の定着に向けた学習支援や子どもの未来応援基金を通じた子ども食堂への支援の拡充及びひとり親家庭への就労支援等に取り組むこととしている。</p>	健康福祉局 教育委員会事務局	子ども政策課 学務課
	<p>(2) 立野ダムについて 熊本市は917億円を投入して立野ダムを建設しようとしているが、建設後は逆に被害が大きくなると言っている専門家もいる。必要なことに財源を割いてほしい。</p>	<p>【河川課 追記】 立野ダム建設については、現在、国の予算にて、国土交通省が事業を実施している。また、立野ダム建設については、流域住民の疑問や不安の声もあることから、流域住民の理解を深めるための取り組みを引き続き丁寧に行っていただくよう、これまでもあらゆる機会を通じて、事業主体である国土交通省に対して要望しており、今後も引き続き働きかけていく。</p>	都市建設局	河川課
2	<p>■総合計画と市議会の関わりについて 熊本市の総合計画と市議会のビジョン、市長の政策と執行部の整合性について伺いたい。様々なビジョンがあるが、きちんと総意を得ているのか。</p>	<p>〔市長〕 総合計画は市議会の議決事項である。例えば教育なら教育市民委員会、医療・福祉関係なら厚生委員会、都市建設関係は都市整備委員会など、それぞれの市議会の委員会できちんと説明し、議論を行い、最終的に市議会で決定していただき計画が施行される。 市民の代表である議員とは議会で議論するので、それ以外の市民の皆さんにもできる限り計画について理解していただき、意見を伺いたいのてこういう場を設けている。 また、総合計画を最終的に決定していく中では、計画の素案ができた段階で、皆さんから意見をいただく「パブリックコメント」という制度を1か月ほど実施する予定としている。今日のテーマ以外でもご意見がある場合は、制度を利用してご意見を提出していただければありがたい。</p>	政策局	政策企画課

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>(1) ICT教育における教員の能力向上について 教育の質の向上のためには、教員の能力の向上が必要であるが、教員に対する、ICT教育を適切に行うための研修・指導はどうなっているのか伺いたい。</p>	<p>〔教育長〕 令和元年度は全小学校にタブレットを導入し、翌2年度には全中学校にタブレットを導入する。ICTに関する教員の研修については、タブレットを導入する前の全教員への研修に加え、ICT支援員という専門員が学校を回り、教員のサポートをしている。研修するだけでなく、分からないことはいつでも聞けるような体制になっており、新しい情報は適宜、学校側に提供している。 実際にタブレットを導入した学校では、子どもたちや先生がタブレットを扱えずに授業が滞るといった場面はあまりない。子どもたちの方が主体的にどんどん使っているというのが現状であり、事前に心配していたほど教員側のスキル不足は感じていない。ただし、今後もっと複雑な作業を行うようになれば、分からない点もでてくるかと思うため、そこは教育委員会としてしっかりサポートしていきたい。</p>	教育委員会事務局	教育センター
	<p>(2) 子どもたちへの福祉的な支援について 先生方が満足に教えていく、子どもたちが満足に学ぶためには、経済的な支援や、親の虐待から子どもたちを守ることなど、福祉的な側面が必要になると思う。これら福祉的な側面について、学校側でどのように支えているのか教えてほしい。</p>	<p>〔教育長〕 福祉的な側面については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが支援を行っている。主にスクールソーシャルワーカーが福祉面と家庭へのサポートを担当しており、市内全体に10人を派遣している。特に支援が必要な学校に関しては、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーと教員がチームになって、学校全体でサポートする体制をつくっている。</p>	教育委員会事務局	総合支援課
4	<p>■発達障がいのある子どもへのアプローチについて 熊本市では心理士が中心となって対応すると伺っているが、例えば他の県では、作業療法士が学校現場に入っていると聞いている。手段が増えるのは良いことだと考えており、熊本市の考えがあれば教えてほしい。</p>	<p>〔教育長〕 作業療法士も配置した方が良いという意見については、おっしゃる通りだと思う。熊本市の現状は、熊本地震によるカウンセリングの必要性が高い学校にスクールカウンセラーを配置しており、地震後の心のケアに取り組んでいる。地震後のこれまでの3年間は地震対応を最優先に取り組んできたため、それが一定程度落ち着いた段階で、今後どのような体制にしていくか検討していきたい。</p>	教育委員会事務局	総合支援課

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
5	<p>■いじめ問題について 大切なのは、相手を思いやる気持ちや道徳心だと思うため、それらを具体的に教育に取り入れていくと良いと思う。</p>	<p>〔教育長〕 現在、熊本市だけでなく全国的にも道徳教育に力をいれている。道徳は、これまでは教科としての取扱いではなかったが、これからは1つの教科として、教科書を使い、質の高い授業を行うことになっている。 昨年度、熊本市でも道徳の教科書の採択を行ったが、その際に重視したのがいじめ対策であり、いじめ対策についてより重視している教科書を選んだ。いじめ対策を徹底していくというメッセージを先生に出しているし、ことあるごとにいじめに対する対応を行い、また、きめ細かく状況を把握するためのアンケート調査も継続して行っている。道徳の授業だけでなく、学校生活を通して命を大切にする教育やいじめ対策は本市としても大変重要だと思っている。</p> <p>〔市長〕 夏休みなどの長期休暇の後、いじめを受けている子が学校に行きたくなくて自殺をしてしまうなどのリスクが高まる時期がある。どこに相談していいかわからない子どもたちのために、昨年度からLINE上で手軽に相談できる体制を作った。相談件数も200件以上あり、専門的な対応をしている。やはり、他人を思いやり、人権を尊重できる子どもたちを教育の現場でしっかり育てていくことが、良いまちづくりに繋がっていくと思う。 また、地震の教訓も生きた教材になる。例えば、避難所ではいろいろな人がいる中で、協働で生活をしていかなければならず、時には我慢をし、時には譲り合いながら生活していかなければならないことなど、子どもたちが学んだり考えたりする場面がある。地震の経験は共有されるべきだと思う。</p>	教育委員会事務局	総合支援課 人権教育指導室
6	<p>■熊本市の教育政策について ICT教育のことで、政令市ワースト4位からトップクラスにまで引き上げていただくことや、専門家を派遣して先生方を支援する体制、それからLINEを使ったいじめに関する相談体制など、市長が柔らかい頭で様々なことに取り組んでいる姿勢が大変素晴らしいと思う。これからも未来を担い、日本を担い、熊本市を担う子どもたちのためにご尽力いただくようお願いする。</p>	<p>〔市長〕 新しいテクノロジーを使いながらも、道徳心を養うことなどは両立できるはずである。例えば、ネット上での誹謗中傷について、自分が書かれたらどう思うのかなど、相手の気持ちになって考えることや、情報化が進み顔を合わせて伝える機会が少なくなっていく中で、コミュニケーションスキルをどう磨くかを考えることもできる。 単に教育機器を導入するだけでなく、熊本大学、熊本県立大学、各企業団体や研究者の皆さんと一緒に、プログラムや教え方を開発するなど、他にも色々なアプローチをしている。子どもを育てるなら熊本市がいいと思っただけのように頑張りたい。</p>	教育委員会事務局	教育センター

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
7	<p>■健康ポイントについて①</p> <p>私は普段、移動には自転車を利用している。自動車ばかり乗っていると足腰が弱くなると思うので、そういう自転車移動などの取組にポイント付与をお願いしたい。</p> <p>また、身体を動かすだけではだめだと思う。公民館では色々な講座をやっており、私はカラオケに行っている。声を出す方には元気な人が多いと思う。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>自転車での移動は、健康のために大変良いことだと思う。</p> <p>また、ふれあいウォーキングクラブの話聞いて、分かりやすさ、目標の明確さ、楽しくできること、この3つが揃っていることがすごく大事なことであったと感じた。健康ポイントに関するアイデアの一つとして取り入れさせていただきたい。</p>	健康福祉局	健康づくり推進課
8	<p>■健康ポイントについて②</p> <p>私たちの校区で「ふれあいウォーキングクラブ」を立ち上げて6年になる。他の自治体での取組を取り入れ、ウォーキングコースなどを作り、歩数等に応じて参加者の方々を表彰している。具体的には、月々の歩数の集計を取り、1年間で歩いた距離に換算するもので、例えば、1年間で北海道まで歩いたのと同じ距離と換算されたら、北海道の物産品をプレゼントするなど、表彰時に各地域の物産品をプレゼントするなどの工夫をしている。</p> <p>このように目標を作れば、楽しみながら実施できるし、歩数換算をしなければいけないので脳の活性化にも繋がる。今後もどんどんやっていきたいと思うので、このような取組に対し助成金等をいただけないか。</p>		健康福祉局	健康づくり推進課
9	<p>■健康ポイントについて③</p> <p>幼児が2人いる。健康のためには、子どもの予防接種や体に良い食事、ストレス発散なども大事だと思う。また、音楽を聴いたり歌ったりする他、お酒を飲む以外の飲食など、そういったことでポイントが貯まるとありがたい。それから人間は睡眠が大事だと思うので、睡眠アプリとの連携などがあればいいと思う。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>予防接種は感染を予防するために法律で定められている部分もあると思うが、高齢者だけでなく若者や子どもさんの健康も含めて、早いうちから健康の意識を持つことは大事だと思う。アイデアの一つとして検討したい。</p> <p>それからストレス発散については、発散方法が人それぞれなのでポイント化は難しいかもしれないが、ストレスをため込まないような取組、例えば研修を受けることなども大事だと思う。</p> <p>よく眠ることも非常に大事。私も睡眠アプリを使っているが、最近はそのようなもので自分の健康状態を管理できるようになってきた。アイデアの一つにさせていただく。</p>	健康福祉局	健康づくり推進課

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
10	<p>■公園の活用について</p> <p>向山校区の高齢者は、犬と一緒に散歩したり、ご夫婦で散歩する方が多い。ただ、それぞれ個人で取り組んでおり、周囲との繋がりが無いので、歩いている人たちがふれ合える場を設ける必要があると思う。そうすれば持続性も確保できると思うが、そのためには公園の活用を考えていく必要があると思う。</p> <p>公園が何のために作られているのか勉強したところ、公園は地域コミュニティを促進させるものであるということが、平成4年の国の答申に書かれていた。しかし、公園の前を通ってもほとんど誰もいない。昔は子どもたちが鉄棒で懸垂などをして遊んでいたが、今はそういう光景もなく、公園が活かされていないというのが実情。</p> <p>また、外国には、公園の中に高齢者のための用具があるところもある。そういうものを利用して高齢者も集える公園をつくっていただきたい。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>公園の活用はこれから大変重要になってくると思う。若い方からも公園での遊び場がないという意見が寄せられている。それぞれの地域によって、利用者の皆さんが使いやすいルールを決めることや、多様な方々とふれ合い、繋がりを持つといった地域コミュニティの場としての利用など、公園の活用については今後も勉強させていただきたい。</p>	都市建設局	公園課
11	<p>■若年からの健康づくりについて</p> <p>健康は習慣から作られる。毎日仕事をして、帰って、ビールを飲んで、という生活が10年も20年も続けば、立派な不健康が出来る上がると思っている。</p> <p>例えば、熊本城マラソンのように、皆から応援してもらえる行事があれば、それを目標に運動をしたいと思うようになるのではないかと。</p> <p>私は柔道を続けており、武道館でサークルを立ち上げ、柔道をした方を募ったら、何十年ぶりに畳に戻ってきたと言って喜ばれる方や、半年間で体重が10キロ減った方もいた。若い方から健康づくりを習慣づける仕組みをつくっていただければと思う。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>若い方から健康づくりの習慣を付けることは重要であり、特に教育との連動が大切だと思っている。</p> <p>学校教育における運動やスポーツに関しては、部活動が社会体育へ移行するなど状況は変化している。学校と健康福祉部門で連携し、若い方の健康に対する意識を変えるような取組を考えていきたい。</p> <p>また、熊本城マラソンのようなイベントに参加すればポイントが貰えたり、熊本城マラソンの抽選に当たりやすくなるといったインセンティブを設けると面白いかもしれない。</p>	健康福祉局 教育委員会事務局 経済観光局	健康づくり推進課 健康教育課 イベント推進課

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
12	<p>■渋滞の解消について</p> <p>熊本は以前に比べて渋滞率がすごく上がっていると感じる。私はマイカーを所持しているが、2か月に1回程しか運転せず、主な交通手段は市電や徒歩、自転車である。最近の事故は、高齢者ドライバーによる交通事故などもあるが、自動車の右折時に多発しているように思う。乱暴かもしれないが、すべての進行方向を青信号にするのではなく、左折と直進だけを青信号にし、右折は別途、時間差で青信号にするなどの改善をしてはいかがか。</p> <p>また、すべての交差点を右折可能にする必要はないと思う。交通制限など道路の渋滞が起きないような交通ルールを考えてはどうだろうか。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>熊本市は右折する箇所が非常に多く、主要交差点でない場所でも右折レーンで引っかかることがある。ただ、信号の制御等は、熊本県警との協議が必要になってくる。</p> <p>〔都市建設局長〕</p> <p>熊本市内においても矢印信号や右折レーンの整備が進んできているが、信号制御はすべて熊本県警の管轄となるため、熊本市と熊本県警で定期的に話し合っていきたいと思う。また、中心部では右折禁止になっている場所が増えているが、利用状況などの背景もあり、すべて禁止するには至っていない。今後も、自動車と公共交通のベストミックスを考える中で、中心部における自動車のスムーズな通行も含めて考えていきたい。</p>	都市建設局	交通政策課
13	<p>■学生目線での公共交通機関の構築について</p> <p>中学生の息子がいるが、高校に進学するにあたっては、通学可能な学校を選ぶ必要があり、交通機関によっては学校選択の幅が狭まるのではないかと思う。私の住まいは中央区のため比較的選択肢は多いが、例えば北区や西区から、中央区以外の学校に通うのは難しいのではないかと思う。</p> <p>例えば、学校の担当者と路線について話し合いを行うなどして、学生が利用しやすい公共交通機関が増えれば、進路選択の幅も広がるのではないかと思う。</p>	<p>〔市長〕</p> <p>教育現場からの意見は現時点では特にいただいているかもしれないが、路線に関してはバス事業者と話し合うことが大事だと思っている。</p> <p>〔都市建設局長〕</p> <p>バス路線網再編の中で、バス事業者と一緒に考えていきたい。</p>	都市建設局	交通政策課

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>(1) さくらカードの広域利用について さくらカードは熊本市内でのみ2割負担で利用できるが、宇城市や益城町などの他市町村と連携して、熊本市外にもバスで行けるようにすれば車の数も減ると思う。高齢者が1人でどこへでも動けるように、さくらカードの利用範囲を広げるといいと思う。</p>	<p>〔市長〕 今は連携中枢都市圏という他市町村との連携体制があるが、さくらカードの制度については、バス事業者の費用負担が非常に大きい反面、利用率がすごく減ってきている。どうすれば皆さんが使いやすいか、お出かけしやすくなるのか、また、バス路線の8割が赤字の中で、どうやって運用していくかも含めて検討できればと思う。</p>	健康福祉局 都市建設局	健康福祉政策課 交通政策課
14	<p>(2) 明午橋について 自転車は車道を走ることとなっているが、明午橋には自転車が通れるような歩道が整備されている。なぜそのような整備となったのか。</p>	<p>〔都市建設局長〕 自転車は基本的に法律で車道通行となっており、国もそれを前提に明午橋を整備したと思うが、実際は自転車が歩道を通っているということなので、今回のご意見については国に確認する。</p> <p>〔市長〕 歩行者への危険性という部分を懸念されていると思うので、地域の皆さんが安全に通行できるように考えていきたいと思う。</p> <p>----- 【土木管理課自転車対策室 追記】 自動車の交通量が多い箇所などでは、歩道も通行できるようになっている。県道熊本瀬田線の明午橋前後区間についても、架橋前も自転車歩行者通行可の歩道であったことから、橋上の歩道も同様の扱いとした。ただし、安全確保の向上を目的に、新たな明午橋では、歩道幅員を2.2mから3.0mに拡大したところである。</p>	都市建設局	道路整備課 土木管理課自転車対策室
15	<p>■ 渋滞緩和について 新水前寺駅ができて非常に便利になった。道路と道路が交差している場所につくられているが、例えば十禅寺の、川尻と交差する場所に駅を設置すれば、南から北までバスに乗る人が増えると思う。そのような観点から、JRと相談していただきたい。 それから、東バイパスを立体交差にすれば渋滞緩和に繋がるという話がよく出ているので、要望としてお考えいただきたい。 また、白川の河川敷にモノレールを走らせればいいという話も出ており、沖縄県那覇市においても、空港から首里城までモノレールが通っている。これが実現すれば利用者も増えると思う。</p>	<p>〔市長〕 駅の新設については、在来線が街中で非常に利便性が高いということ、そしてその分公共交通にシフトしていくことは間違いないため、JR九州と協議し、ご要望についても話をさせていただきたいと思う。ただし、駅を設置することになれば、例えば西熊本駅では十数億円とかなりの予算が必要になったので、そういったことも検討しながらJR九州と協議を行っていききたい。 東バイパスの立体交差については、私も国に要望し続けている。熊本市の交通状況は政令市でもワースト1位であり、熊本地震時においても、渋滞が原因で物資が運べない、人が避難できない、救急車両が通れないなど、大混乱に陥った。道路の問題や公共交通とのバランスなどへの対策が必要であり、国土交通省とも協議をしている。特に、東バイパスについては、元々熊本環状道路の計画があり、私は地域高規格熊本環状道路建設促進期成会の会長として、国に対して要望してきた。また、九州地方整備局や国土交通省本省に対しては年に何度もお願いしており、国にも問題意識を持っていただいている。 時間はかかるが、田井島や神水、保田窪北、西原、県庁前など5、6箇所は間違いなく立体交差化をした方が良く考えているため、引き続き要望していく。 河川敷のモノレールに関しては、中々簡単にはいかないと思う。市電の延伸も慎重にやっている状況である。</p>	都市建設局	道路整備課 交通政策課

「市長とドンドン語ろう！」令和元年（2019年）5月24日 中央区 本庁舎14階大ホール 意見交換内容 参加者：65名

No.	ご意見	回答	局	担当課
16	<p>■熊本駅について 在来線熊本駅東口広場について、新駅舎開業式は終わっているが、サブバスターミナルの機能は発揮されているのか。設計協議では、1番乗り場から6番乗り場までバス乗降口を新設すると聞いていたが、いまだ1番乗り場だけである。2番乗り場から6番乗り場の竣工時期はいつなのか。 新幹線熊本駅前西口広場から90mの地点に、児童教育施設である春日小学校の正門があるが、全国的に、新幹線駅前から90m以内の地点に、児童教育施設がある場所が他にあるだろうか。児童教育施設の教育環境はこれでいいと考えているのか。ホームからの放送など雑踏、騒音、振動、大気汚染等の諸測定器の設置が必要だと思うがいかがだろうか。 東口駅前広場はいつ完成するのか。数千台もの自動車が入り出す場所であるにもかかわらず、信号機が入り口に1か所しかなくて大丈夫なのか。</p>	<p>〔市長〕 サブバスターミナルの視点は非常に重要である。新幹線口は以前と比べて状況が変わっており、駅ビルを整備するという構想も、熊本県が白川口（東口）駅前広場を整備するときにはなかった話である。そういうことも含めて、バスの利便性向上やサブバスターミナル化を進めていくことについて検討していく。</p> <p>〔都市建設局長〕 白川口（東口）駅前広場は、2020年度中に完成予定である。</p> <p>〔市長〕 白川口駅前の駅ビルがちょうど2021年春に完成するが、それに併せて白川口（東口）駅前広場も完成する。信号機についても、熊本県警と協議していきたい。</p> <p>-----</p> <p>【熊本駅周辺整備事務所 追記】 バス乗り場も含め2020年度中の完成を目指している。</p> <p>【健康教育課 追記】 児童教育施設の教育環境について、学校の環境衛生に関する基準「学校環境衛生基準」が文部科学省から出されており、この基準の達成状況を調査するため、教職員による日常点検、学校薬剤師や専門業者による年1回の定期検査を行っている。検査項目についてもこの基準で定められており、温度、湿度、浮遊粉じん、気流、一酸化炭素、二酸化窒素、照度、騒音等がある。 春日小学校については、平成30年度の定期検査による数値は、いずれも基準値以下であった。今後も、日常点検や定期検査の結果を注視し、学校環境の安全に努めていきたい。</p>	都市建設局 教育委員会事務局	熊本駅周辺整備事務所 健康教育課